

# 自然環境（生物）に関する市民意識調査 《集計結果報告書》

## 1 調査の概要

### (1) 目的

市民が仙台の自然環境と普段どのように接し、どう評価しているか、また、自然環境を保全するためにどのようなことを行っているか等を把握し、本市の自然環境保全に関する施策を推進するための検討資料として活用するため。

### (2) 意見募集方法・期間

- ① 調査対象 : 市政モニター200名
- ② 調査方法 : 郵送及びインターネットによる配布回収
- ③ 調査期間 : 平成27年11月6日から平成27年11月20日

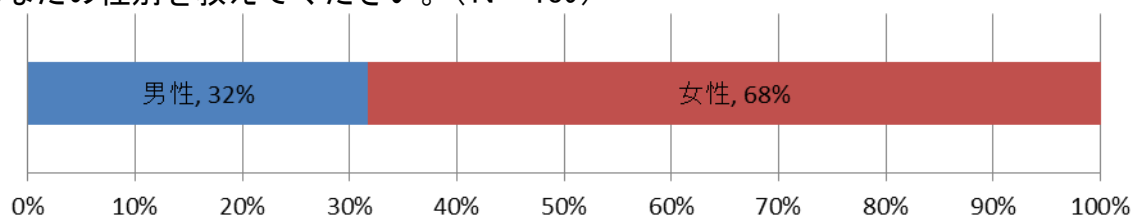
### (3) 回収数

有効回答数 : 189名（回収率94.5%）

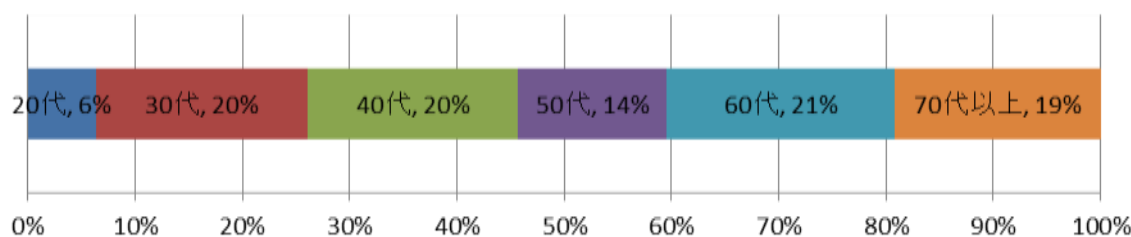
## 2 調査結果

### 回答者の属性について

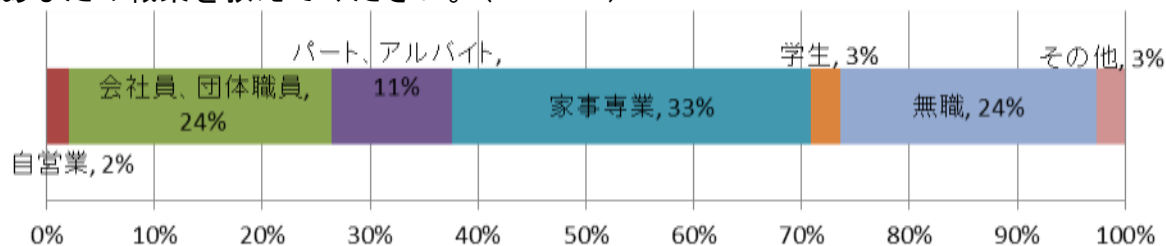
#### 問1 あなたの性別を教えてください。（N=189）



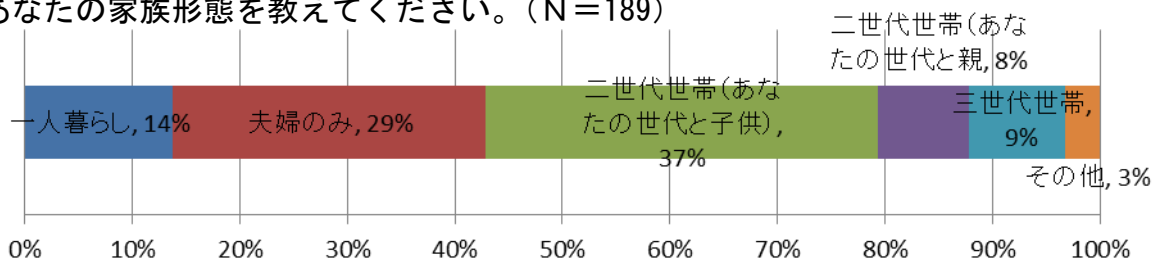
#### 問2 あなたの年齢を教えてください。（N=188）



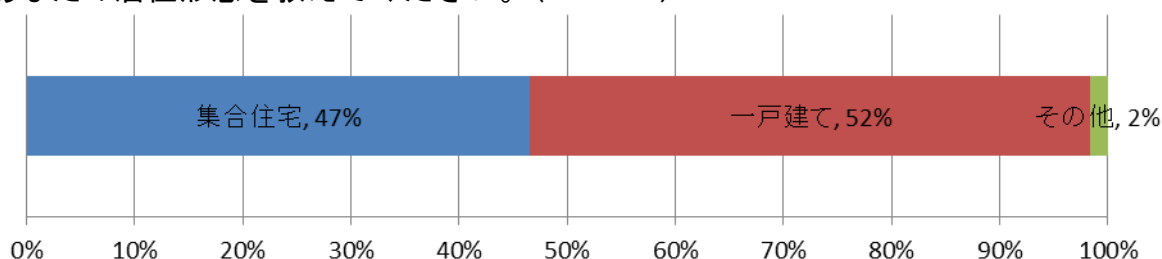
問3 あなたの職業を教えてください。(N=189)



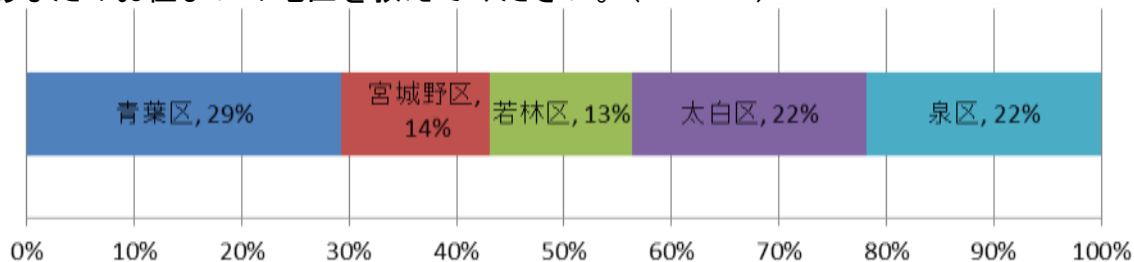
問4 あなたの家族形態を教えてください。(N=189)



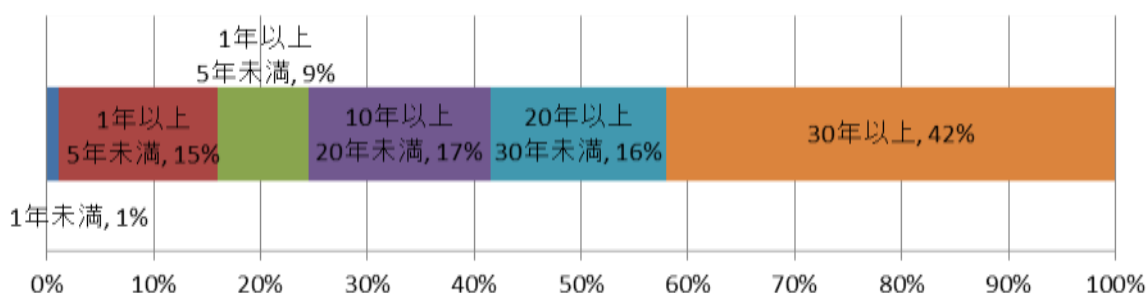
問5 あなたの居住形態を教えてください。(N=189)



問6 あなたのお住まいの地区を教えてください。(N=188)



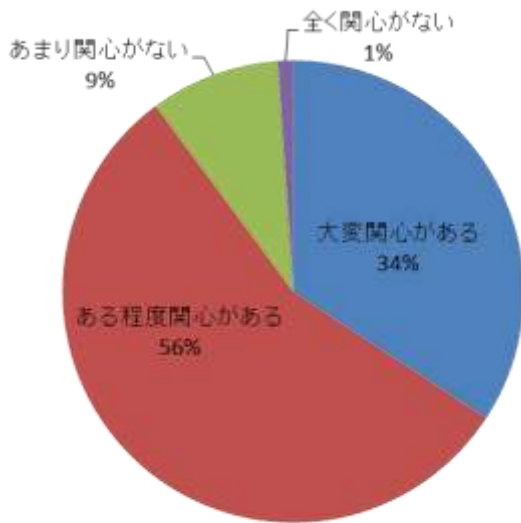
問7 仙台市にお住まいになってからの年数について教えてください。一度市外に転出して、仙台に戻ってきた方や、市内で引越した方は、通算の年数をお答えください。



## 仙台市の生きもの環境について

仙台の自然に対する愛着や関心について伺います。

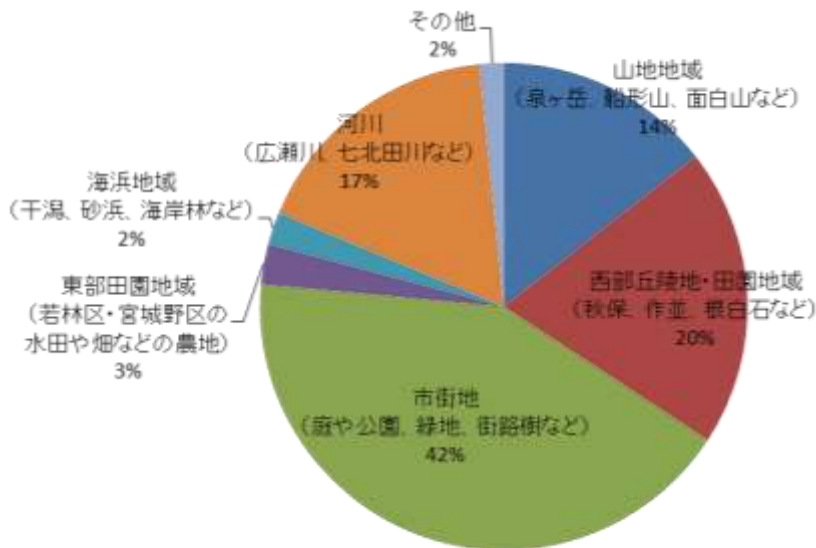
問8 あなたは、自然についてどの程度愛着や関心がありますか。(N=187)



「ある程度関心がある」と答えた人が56%で最も多く、ついで「大変関心がある」と答えた人が34%となっており、9割近くの人が自然について愛着や関心を持っていることが分かります。

※本アンケートでは「自然」を、野生の植物や動物、またその生育・生息場所である森や川、海、農地、公園・緑地などとしています

問9 仙台の自然として、あなたが最も愛着や関心を持つ地域はどこですか。(N=187)



(参考：仙台市のおおまかな地域分類)



「市街地 (庭や公園、緑地、街路樹など)」と答えた人が42%で最も多くなっていました。このことから、日常生活の中でふれあう身近な自然に対し、愛着や関心を持つ人が多いことが分かります。反対に「東部田園地域 (若林区・宮城野区の水田や畑などの農地)」や「海浜地域 (干潟、砂浜、海岸林など)」と答えた人は2~3%と、少なくなっていました。

問10 仙台の自然の中で、あなたが好きな植物は何ですか。(自由回答, N=162)

	項目	人数
①	ケヤキ	57
②	サクラ	31
③	イチョウ	24
④	ハギ・ミヤギノハギ	16
⑤	モミジ	11
⑥	タンポポ	6
⑦	キンモクセイ・ギンモクセイ	5
⑦	コスモス	5
⑨	どんぐり	4
⑨	カタクリ	3
⑨	ブナ	3
⑨	マツ	3

問11 仙台の自然の中で、あなたが好きな動物は何ですか。(自由回答, N=187)

	項目	人数
①	野鳥	27
②	リス	13
③	スズメ	15
④	カモシカ	11
⑤	ハクチョウ	5
⑤	ウグイス	5
⑦	タヌキ	4
⑦	カモ	4
⑨	サギ	3
⑨	キジ	3
⑨	シジュウカラ	3
⑨	ホタル	3
⑨	ヤマバト	3
⑨	トビ	3

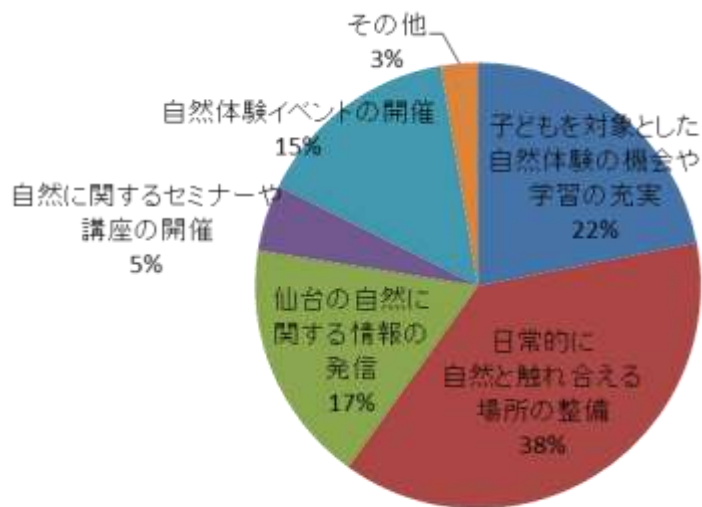
※植物・動物ともに上位に挙げたもの10項目を挙げています。(犬・猫などのペットは除いています)

植物では、青葉通や定禅寺通のシンボルともなっている「ケヤキ」を挙げた人が最も多くなっていました。また、「サクラ」や「イチョウ」、「モミジ」等、季節にあわせ美しい花や紅葉で目を楽しませてくれる樹木を挙げた人も多くなっていました。

動物では、特に種類を限定せず「野鳥」を挙げた人が最も多くなっていました。その他の回答でも、「スズメ」や「ハクチョウ」、「ウグイス」、「カモ」など、身近に見られる野鳥の名前が多く挙がっていました。

仙台市の木・花・鳥・虫は、昭和46年に市民投票により、それぞれケヤキ、ハギ、カッコウ、スズムシに決まりました。ケヤキとハギについては今回の調査でも上位に名前が挙げられました。

問12 近年、さまざまな理由により市民の自然への関心が低くなってきていることがうかがえます。仙台の自然に対する市民の愛着や関心を高めるために、今後仙台市が力を入れていくべきことは何だと思えますか。(N=187)

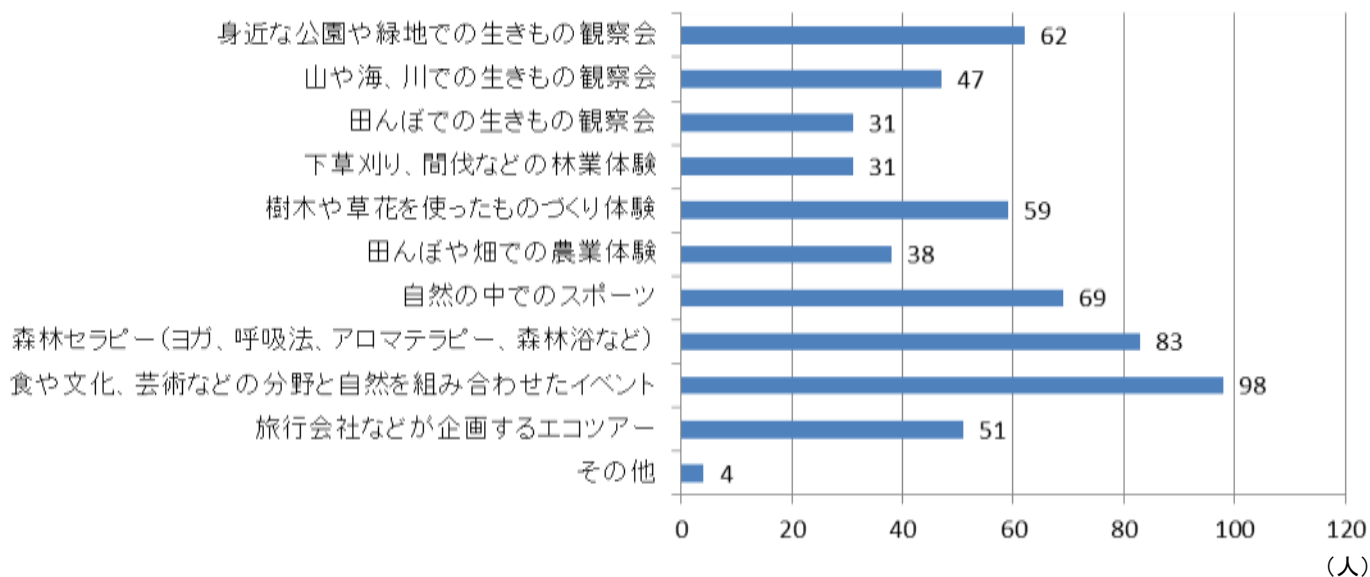


「日常的に自然と触れ合える場所の整備」や「子どもを対象とした自然体験の機会や学習の充実」と答えた人が多く、それぞれ38%、22%となっており、日常的な自然との触れ合いや、子どもの環境教育を重視している人が多いことが分かります。

「その他」では「森林や山の清掃活動」などの意見がありました。

問13 以下のうち、あなたが参加してみたいイベントをお答えください。

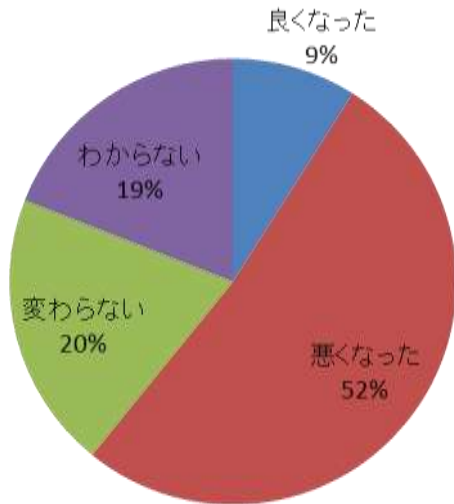
(複数回答可, N=186)



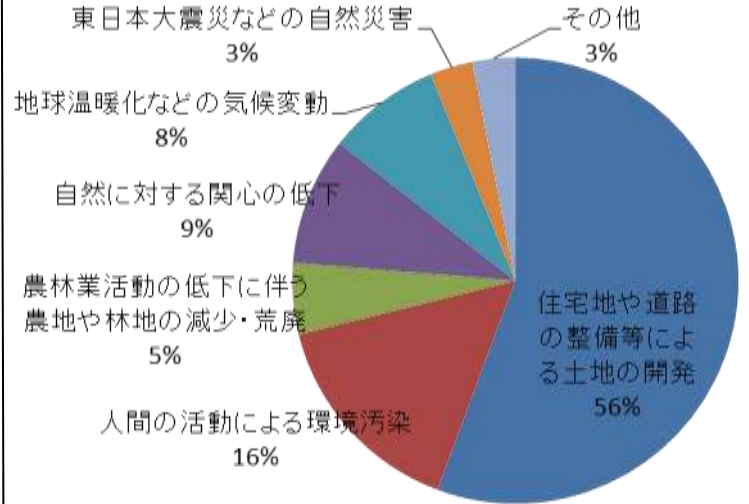
「食や文化、芸術などの分野と自然を組み合わせたイベント」には、過半数の人が興味を示していました。また、「森林セラピー(ヨガ、呼吸法、アロマセラピー、森林浴)」に興味を示している人も多く、自然そのものを楽しむだけでなく、自然以外の要素(食や文化、芸術、健康等)も取り込んだイベントが多くの人に興味を持たれていることが分かります。

あなたの身近な自然について伺います。

問14 普段、あなたが生活する範囲にある自然は、子どもの頃と比べてどのように変わってしまったと思いますか。(N=189)



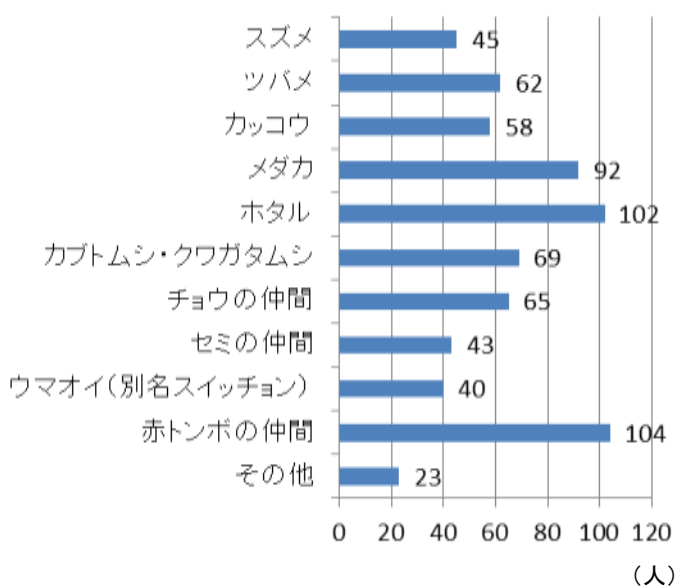
問15 問14で「2.悪くなった」を選択した方に伺います。悪くなったと思う理由をお答えください。(N=97)



身近な自然については、過半数の人が「悪くなった」と感じています。一方「良くなった」と感じている人は回答者全体の9%にとどまりました。「悪くなった」理由としては「住宅地や道路の整備等による土地の開発」と答えた人が最も多くなっていました。

仙台の生きものについて伺います。

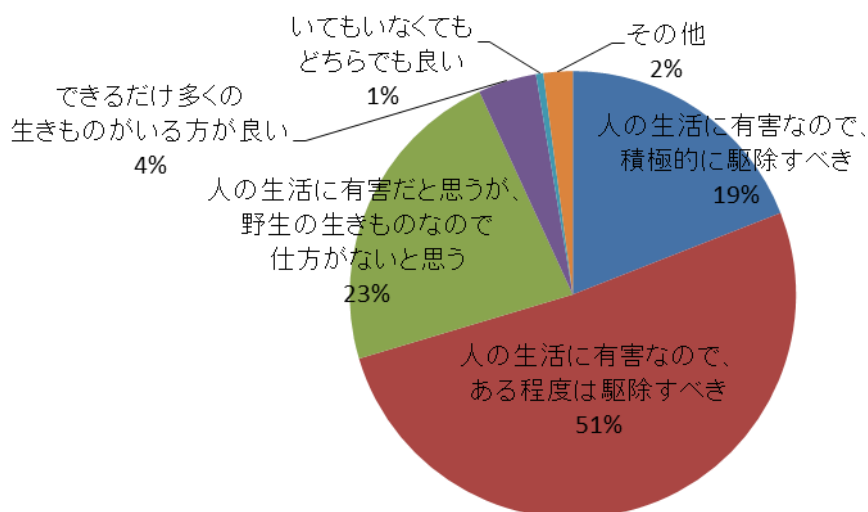
問16 あなたが普段の生活の中で見かける生きもののうち、子どもの頃と比べて見かけなくなったと思うものをお答えください。(複数回答可, N=188)



「赤トンボの仲間」、「ホタル」、「メダカ」については、過半数の人が、子どもの頃と比べて近年見かけなくなったと答えていました。

また「その他」では「ゲンゴロウ」や「ドジョウ」、「ザリガニ」、「カエル」、「イナゴ」等の田んぼの生きものの他、「スズムシ」や「コオロギ」等の秋に鳴く虫、「ミミズ」、「カミキリムシ」、「カマキリ」、「バッタ」、「ミノムシ」、「コウモリ」、「モグラ」等の名前が挙がりました。

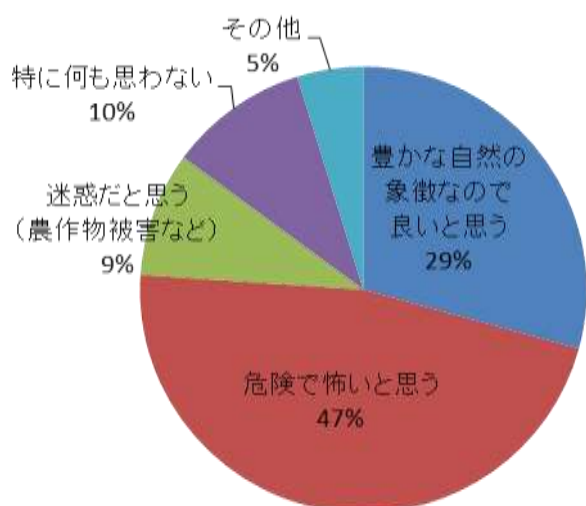
問17 人の暮らしの中で、ごみを荒らす、人を攻撃するなど迷惑をかけることもある野生生物（例えばカラス、ハト、コウモリ、ハクビシン、スズメバチなど）について、どのような印象を持っていますか。（N=189）



人の暮らしの中で迷惑をかけることもある野生生物については、「積極的に駆除すべき」という意見と「仕方がないと思う」という意見がそれぞれ19%と23%で、ほぼ同数となっており、両意見の中間の意見「ある程度は駆除すべき」が51%で最も多くなっていました。

「その他」では、「駆除ではなく棲み分けをするべき」、「ごみの出し方等、人間の方にも問題がある」、「人里に出てこなくても良いように、山林の環境を整備することが必要」などの意見がありました。

問18 仙台市にはツキノワグマが生息しています。ツキノワグマについてあなたが持っている印象をお答えください。（N=188）

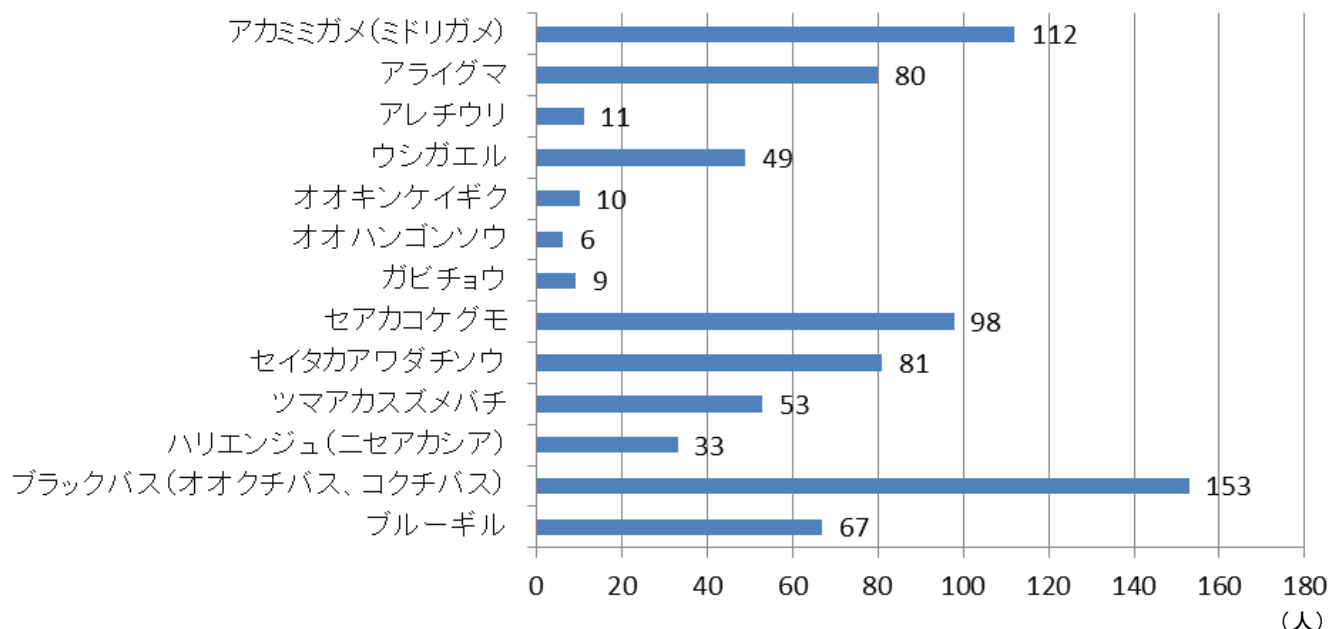


約半数の人が「危険で怖いと思う」と答えており、最も多くなっていました。「迷惑だと思う」と答えた人と合わせて、ツキノワグマに対して負の印象を持っている人が過半数を占めていることが分かります。

その一方で、「豊かな自然の象徴なので良いと思う」と答えた人も29%おり、ツキノワグマに対し良い印象を持っている人も少なからずいることが分かります。

「その他」には「人間とクマの生息場所の棲み分けを進めるべき」、「クマの生息地である山林の環境整備を進めるべき」、「クマとどうしたら共存できるかを考えるべき」などの意見がありました。

問19 「外来種」とは、もともとはいなかった地域に外国など他の地域から連れてこられたりやってきたりした生きもののことです。外来種の中には、人に被害をもたらしたり、地域の自然に悪影響を与えたりするものもいます。以下の生きもののうち、外来種だということを知っているものをお答えください。(複数回答可, N=183)



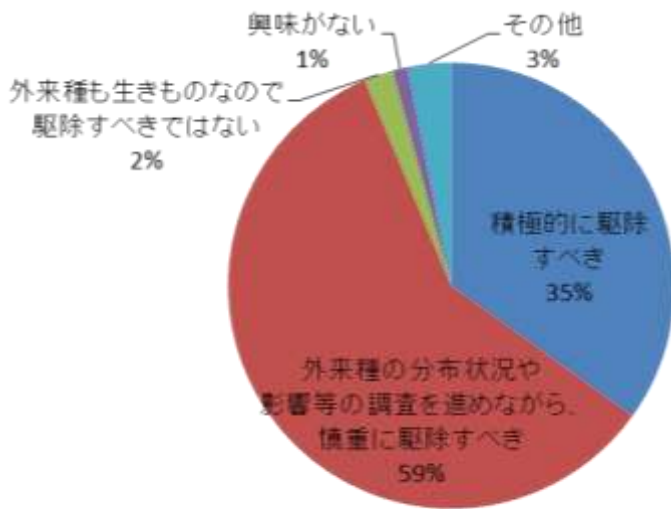
「ブラックバス」や「アカミミガメ」、「セアカコケグモ」など、既に多くの人に外来種だということが認識されている生きものがある一方で、「ガビチョウ」や「アレチウリ」、「オオキンケイギク」、「オオハンゴンソウ」等、特定外来生物<sup>\*</sup>であるにも関わらず、知られていない生きものもいることが分かります。

※特定外来生物：「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」の中で、人間の移動や物流が盛んになり始めた明治時代以降に海外から入ってきた外来種のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業に悪影響を与えるもの、与えるおそれのある外来種として指定されている生きもの。

また、「ツマアカスズメバチ」は近年、対馬や九州本土で侵入が確認された外来種で、仙台市では確認されていないものですが、多くの人々が外来種だということを知っていました。これは、テレビや新聞などで、「ツマアカスズメバチ」がもたらす被害等が大きく取り上げられ報道されたことが影響していると考えられます。



問20 あなたは外来種について、どのように対応をしていくべきだと思いますか。(N=189)

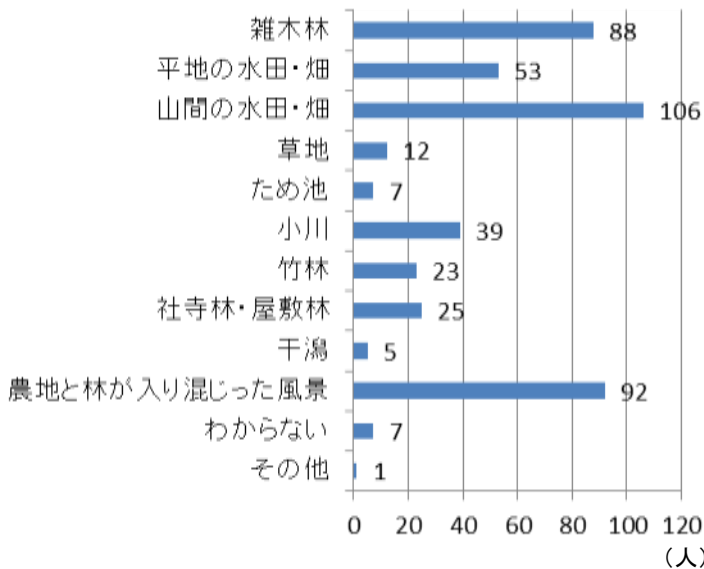


外来種については、ほとんどの人が駆除すべきだと考えています。ただし、駆除の方法としては「慎重に駆除すべき」だと考えている人(59%)と「積極的に駆除すべき」だと考えている人(35%)がおり、意見が分かれました。

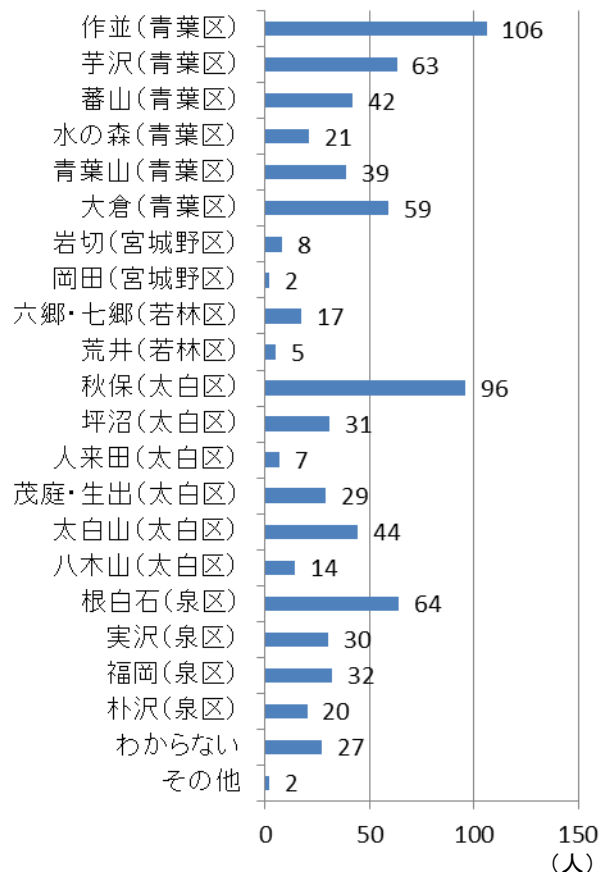
「その他」には、「駆除の費用対効果を考えて実施を検討すべき」、「持ち込まれないような対策を進めるべき」、「積極的に駆除するのではなく、これ以上増えないように対策をするべき」などの意見がありました。

仙台の里地(さとち)里山(さとやま)について伺います。

問21 仙台の里地里山と聞いてあなたが思い浮かべるのはどのような風景ですか。(3つまで選択可, N=183)



問22 仙台の里地里山だと思える場所は具体的にどこですか。(複数回答可, N=188)



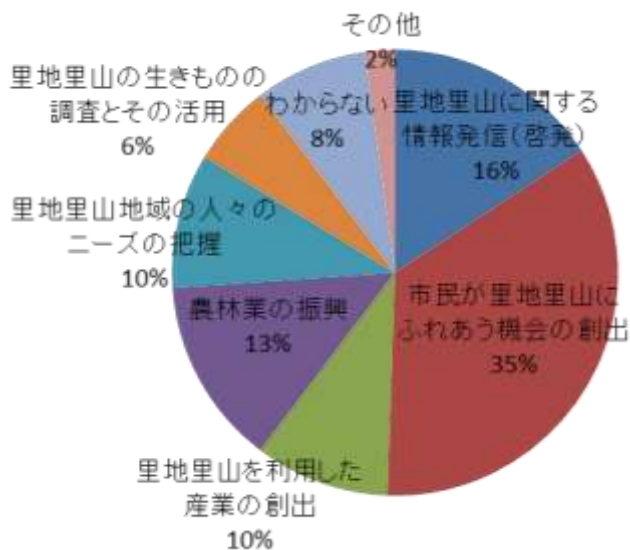
(参考図)



「山間の水田・畑」、「農地と林が入り混じった風景」、「雑木林」の順に多く、いずれも約半数の人が選んでいます。このことから、仙台市においては山あいの集落を里地里山として思い浮かべる人が多いことが分かります。

具体的な場所としては、温泉地としても有名な作並（青葉区）と秋保（太白区）を選んだ人が特に多く、ともに約半数の人が選んでいました。

### 問23 里地里山を維持していくために必要なことは何だと思えますか。(N=184)



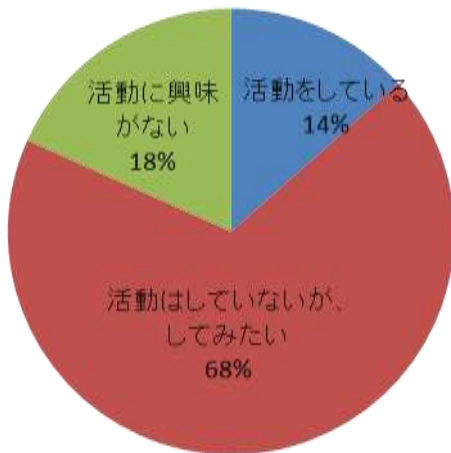
「市民が里地里山にふれあう機会の創出」と答えた人が35%で最も多く、「里地里山に関する情報発信(啓発)」(16%)と答えた人とあわせて全体の回答の約半数を占めています。

このことから、里地里山について多くの市民が親しみを感じるようになることが、里地里山を維持していくために必要なことだと考えている人が多いことが分かります。

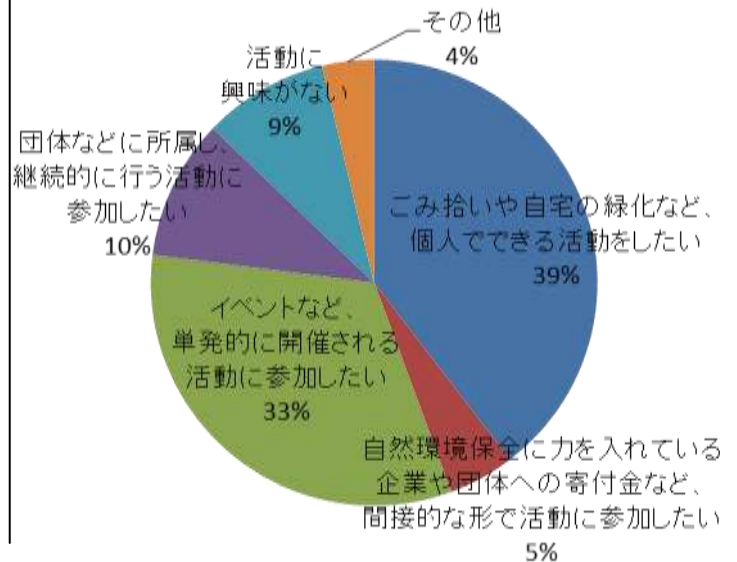
「その他」には「風致地区等の指定を増やす」、「里山維持のための援助」、「若者の転入や地域おこし」などの意見がありました。

仙台の自然を守り豊かにする活動について伺います。

問24 あなたは仙台の自然を守り豊かにするための活動をしていますか。(N=186)



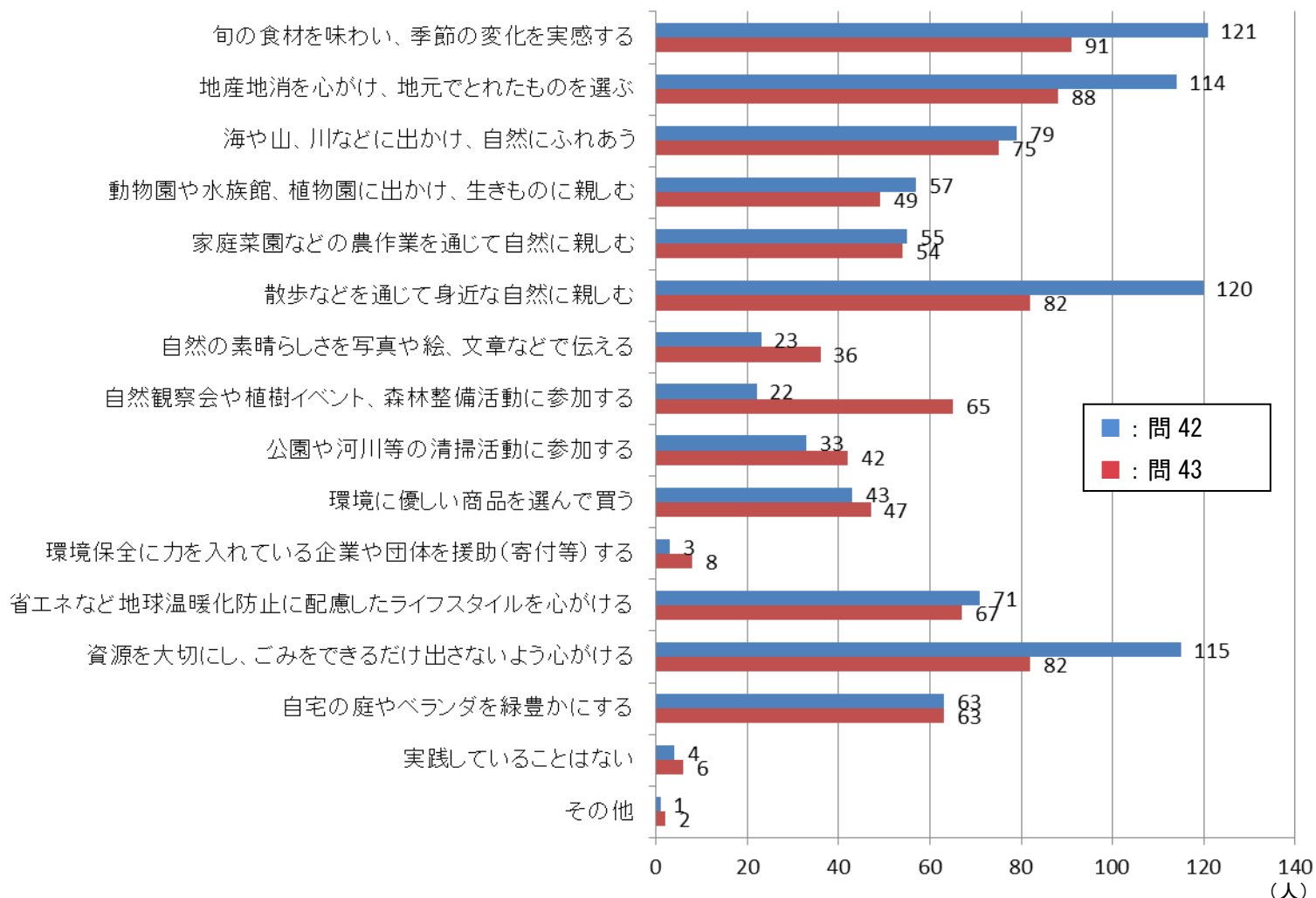
問25 仙台の自然を守り豊かにするための活動に、あなたはどのように関わりたいですか。(N=187)



仙台の自然を守り豊かにするための活動を実際に行っている人はまだ少ないですが、活動をしてみたいと考えている人は68%と多くいます。活動の内容としては、「ごみ拾いや自宅の緑化など、個人でできる活動をしたい」と考えている人が39%で最も多くなっていました。また、「イベントなど、単発的に開催される活動に参加したい」と考えている人も33%と多くなっており、活動場所・時間を自分のライフスタイルに合わせることができ活動に興味を持っている人が多いようでした。

問26 仙台の自然を守り豊かにするため、あなたが日頃実践している、もしくは心がけている活動をお答えください。(複数回答可, N=189)

問27 仙台の自然を守り豊かにするため、あなたが実践してみたい活動をお答えください。(複数回答可, N=188)

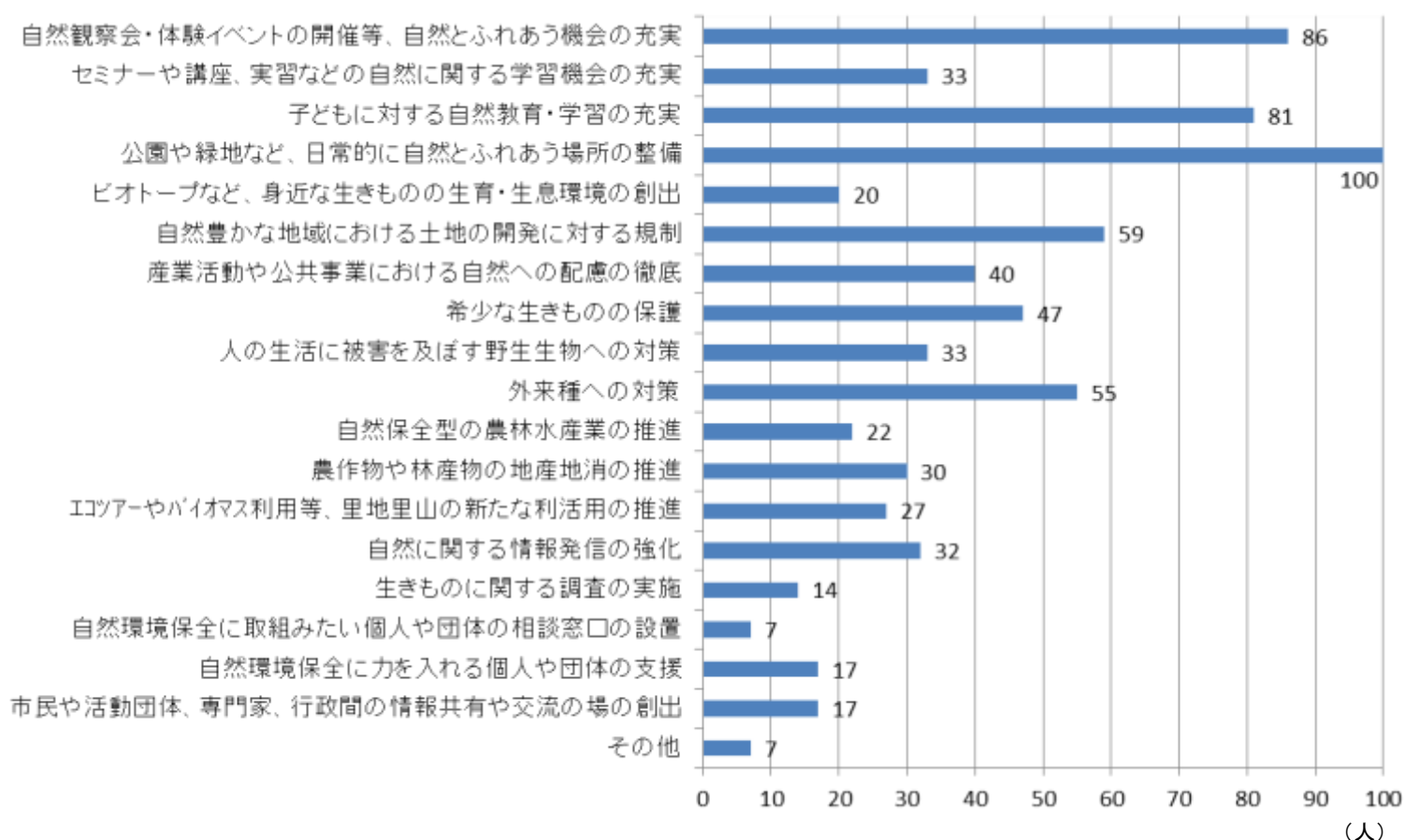


日頃から実践している、あるいは心がけている活動では、「旬の食材を味わい、季節の変化を実感する」、「地産地消を心がけ、地元でとれたものを選ぶ」、「散歩などを通じて、身近な自然に親しむ」、「資源を大切にし、ごみをできるだけ出さないよう心がける」と答えた人が多く、それぞれ約6割の人が実践していました。

実践してみたい活動としても「旬の食材を味わい、季節の変化を実感する」、「地産地消を心がけ、地元でとれたものを選ぶ」と答えた人が多く、約半数の人が選んでいました。

また、「自然観察会や植樹イベント、森林整備活動に参加する」は、実践している人は多くはありませんが、実践してみたいと考えている人は多く、機会創出などにより参加する人が増える可能性があります。

問28 仙台の自然を守り豊かにするため、今後仙台市が力を入れていくべきことは何だと思  
いますか。(5つまで選択可, N=176)



「公園や緑地など、日常的に自然とふれあう場所の整備」と答えた人が最も多く、約6割の人が選んでいました。次いで、「自然観察会・体験イベントの開催等、自然とふれあう機会の充実」と答えた人が多く、約5割の人が選んでいました。このことから、市民と自然の関わり合いやふれあいを促進することを重視している人が多いことが分かります。

また、「子どもに対する自然教育・学習の充実」と答えた人も多く、次世代を担う子どもへの環境教育を重視している人も多くなっていました。

「その他」では、「若い層に働きかける工夫」、「インターネットやSNSを活用した情報発信」、「親子三代で参加できる自然イベント」などの意見がありました。

今回の調査結果やいただいたご意見は、自然環境保全に関する施策の推進のための検討資料として活用させていただきます。ご協力誠にありがとうございました。